

令和5年度科学研究費助成事業「学術変革領域研究（A）」に係る中間評価結果

領域番号	20A402	領域略称名	アルゴリズム基盤
研究領域名	社会変革の源泉となる革新的アルゴリズム基盤の創出と体系化		
領域代表者名 (所属等)	湊 真一 (京都大学・大学院情報学研究科・教授)		

(評価結果)

A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの進展が認められる)

(評価結果の所見)

本研究領域では、現代の高度情報化社会を動かしているアルゴリズムの理論と技法の進展を、様々な分野の科学者・技術者が理解可能な形で広く自由に利用できる学術として体系化し、社会変革の源泉となる基盤研究領域として発展させることを目的としている。

各研究課題において突出した成果を含む多くの優れた研究成果を挙げていることは高く評価できる。また、研究者間の連携や若手研究者の育成のための様々な工夫や取り組みが行われており、研究マネジメントについても高く評価できる。具体的な研究領域内外の活動として、サマースクール、セミナー、コロキウムなどの議論の場の提供、サテライトオフィスでの勉強会等の活動が活発に実施され、若手研究者が自主性を持った研究者として育つための取り組みが行われている。若手研究者や公募研究を複数の計画研究と連携して研究を進めていく体制など細かい配慮も見られる。さらに、アウトリーチ活動として、ニュースレターの発行や、関連学会との多数の共催企画、「情報科学の達人」プログラムや国際アルゴリズム競技会の実施など、活発な活動が行われている。

理論研究でありながら、実世界への応用に目を向けたインターフェースを重視している体制は評価できるが、議論プラットフォーム等の「新しい概念」はまだ議論の最中である。学術変革としての本研究領域の成功の一部は、この新しい概念の体系化とインターフェースを通じた社会実装であり、そのこと自体の重要性もさることながら、その理論研究へのフィードバックを大いに期待したい。